



# 令和元年度 第10回まなざしキラリ賞

この賞は、子どもを育む4つの場（家庭、地域、企業等、学校等）で、4つの視点（命、自立、他者とのかかわり、子どもを取り巻く環境）を基準に“キラリ”と光る取り組みをしている団体や個人を表彰するものです。

## キラリ大賞

### 〈個人の部〉

#### 池田 満（高木瀬）

高木瀬校区の民生委員児童委員協議会副会長であるとともに、まちづくり協議会子ども見守り部会副会長として子ども達の安心・安全を常に考え、約15年前から毎朝、学校近くの交差点で交通指導をされている。

また、子ども達がのびのびと元気よく仲良く「異年齢の子ども達の絆」を深めてくれることを願い、「異学年児童の交流の場」「学び合う場」としての「子どもの居場所づくり」を年12回程公民館にて実施されている。



### 〈団体の部〉

#### 高木瀬小学校PTA祖父母の会（高木瀬）

高木瀬小学校区の在住者に限らず、高木瀬小学校にお孫さんを通わせている祖父母の皆様による会である。約20年にわたり、児童と学校のために何かできることをという思いをもって活動していただいている。生活科や総合的な学習はもちろん、スキルタイム（月3回程度、木曜日の朝の時間）の支援等をされている。

また、都合がつく日には子どもの安全見守り活動や日頃の登下校中の安全見守りもされ、子ども達は安心して登下校をすることができている。栽培委員会といっしょに年2回の花の苗植え活動も行われており、学校がきれいな花で彩られている。



# キラリ賞 （個人の部）

## 馬渡肇（高木瀬）

校区老人会で子どもの見守りを行っていたが、高齢化により廃止となり、その後平成24年頃から子どもの登校時の見守りを始められた。

朝7時前頃～8時過ぎまで雨の日も風の日も雪の日も、一日も欠かさず、とても交通量が多い佐賀北警察署北の、土井呉服店横交差点の横断歩道で、子どもが安全に横断できるよう、あいさつを交わし誘導を続けられている。



## 廣渡高志（本庄）

7年間、本庄小学校の子ども達（西寺小路）の登校グループと約2キロの道のりを毎朝一緒に歩いて、子ども達の安心・安全を見守られている。

途中の交通量の多い南部バイパスや住宅地内の狭い道などでは、子ども達に声をかけて、通勤の車や自転車への注意喚起をされている。本庄小学校の子ども達から、とても慕われている地域の方である。



## 石田耕一（開成）

定年退職後から6年にわたり毎日、あおぞら公園前交差点に立ち、子ども達の安全な横断をサポートしてきた。この交差点は、信号機がなく、東西南北4方向から車の往来があり、中高校生の自転車もひっきりなしに通り、危険な場所でもある。街路樹が茂り見通しの悪いところもあるため、地域の方に声をかけ、見通しがよくなるよう働きかけもしてきた。子ども達に対して、「おはよう」と元気な声であいさつし、あいさつの重要性も広められている。



## 井上セツ子（開成）

開成校区地域子ども教室（通称「ゆうゆうクラブ」）の立ち上げ初期から、一スタッフとして、子ども達の良き話し相手となり、またスポーツや料理、オセロ、囲碁、将棋など、幅広い分野において10年以上にわたり、年間数十回の活動に参加され、子ども達に寄り添いながら、多くのことを教えられた。「ゆうゆうクラブ」は平成31年3月をもって約14年間の永きにわたった活動を中止したが、現在は地域で子ども達を見守られている。



## 江崎尚武（開成）

開成校区地域子ども教室（通称「ゆうゆうクラブ」）の立ち上げ初期から、大学教員をはじめとして自身の豊富な経験と知識をもとに、子ども達にスポーツ、昔遊び、うどん作りなど10年以上にわたり、年間数十回の活動に参加され、子ども達と一緒に汗を流して多くのことを教えられた。「ゆうゆうクラブ」は平成31年3月をもって約14年間の永きにわたった活動を中止したが、現在は地域で子ども達を見守られている。



## 川上 春生（開成）

10年以上にわたり毎日、西部環状線八戸北信号を渡る小・中・高校生の安全な横断をサポートしてきた。特に中・高校生は、交通量の多い西部環状線を東西に自転車で横切るので、その安全指導は大変重要で、地域のみならず、多くの子ども達を見守られている。



## 多々良 實（開成）

開成公民館長時代の平成17年に、開成校区地域子ども教室（通称「ゆうゆうクラブ」）を立ち上げ、館長退任後も長年にわたり子ども教室の実質的な責任者としてその普及推進に努められた。年間数十回を超える活動のほとんどに参加され、異年齢の子ども達の交流の場、子ども達の居場所づくりに尽力され、開成校区では広く認知される活動となつた。



## 古本 藤光（開成）

約3年前から開成小学校の学校ボランティアとして、図書館での貸し出し業務の応援のため、朝と昼休みにほぼ毎日来校される。その他、校外学習の安全指導ボランティアや昔遊びクラブの支援、スキルタイムの丸つけなど、その活動は多岐に渡り、本校の教育活動にとってなくてはならない存在となっている。子ども達の名前や性格もよく知られていて、間違っていることはきちんと叱っていただくななど、地域の厳しくも温かいまなざしのシンボルとなっている。



## 淀川 晴利（開成）

開始以来15年にわたり毎日、西部環状線の八戸溝北信号前に立ち子ども達の安全な横断をサポートしてきた。子ども達からは、「ハイタッチおじさん」と呼ばれ、横断や登校してくる子ども達と、手を合わせてハイタッチし元気づけている。夜更かしや朝寝坊で元気のない子どもにも、励ましの言葉をかけて学校へ送り出して下さり、子ども達の笑顔や頑張りにつながっている。



## 森 武正 善（諸富南）

平成17年から現在まで毎日、朝の登校時（午前7：00～7：50）小・中学生の横断指導と子ども達に挨拶運動をされている。また、新学期には新一年生を下校時、学校まで出向き自宅近くまで下校の付添いをされている。地区の子ども会行事にも必ず出席され、子ども達を励まされている。





## 本庄小おはなしの森（本庄）

平成10年の本庄小学校110周年を機に、子ども達の豊かな心を育むために、本庄町に住む有志の方々が集まって「おはなしの森」の活動をスタート、今年で21年目になる。月一回お昼休みに、本の読み語りや素話（すばなし）をされ、子ども達は夢中になって聴いており、毎回この時間をとても楽しみにしている。特に素話では、絵や小道具などを使わずに子ども達を見ながら話されるので話し手の迫力が伝わり、子ども達はイメージをいっぱい膨らませながらお話の世界に浸っている。



## 新栄ボランティア（新栄）

平成元年の活動開始から30年近く、めぐみ園へ週1回の洗濯たたみや夏まつりやクリスマスなどのイベントに出向き、協力されている。

平成9年頃から、子育てサークル支援として、毎週第2・第3木曜日、保護者が安心して幼児と活動できるように、公民館にて乳幼児の託児を行われている。

平成12年頃から毎年、新栄校区体験通学合宿において、昼食の準備や夜間の宿泊などを行い、児童の安全管理に携わっていただいている。

平成26年から年に1回、公民館主催講座「子ども寺子屋」の学習スタッフとして、宿題の手助けを行われている。



## ふるさと先生（諸富南）

平成25年から毎年11月、地元で収穫した大豆を持って来園し、年長の子ども達と一緒にみそ作り体験活動をしていただいている。みそができる上がる2月頃に再度来園し、みそを使って豚汁、地元で収穫した大根を使った漬物作りをされ、児童と一緒に食べていたらしている。

子ども達が家庭で味わえないことを温かいまなざしで教えていただいている。



## 諸富新村ふれあい いきいき世代間交流（諸富北）

諸富新村地区は、少子・高齢化並びに核家族化が進む中、地域の住民の絆を高め、子ども達が高齢者への思いやりの心を育むため、また、子どもへの声かけ事案を防ぐ目的で子ども達と高齢者を含む地域住民が触れ合う「世代間交流」行事を平成11年7月から行っている。

地域の伝統的な文化歴史を伝承するため、大堂神社の下の宮「大神宮しめ縄づくり」では、なぜしめ縄を飾るのか子ども達に地域の大人が教えた後、稻わらで作業を行っている。

「環境美化活動とカレー会」では、高齢者の指導の下、プランターを利用し子ども達と花苗植栽を行い、カレーを食べ、ゲームを楽しんだり、「クリスマス会交流」では、大人も童心に戻り、子ども達と歌やゲーム、ケーキを食べ楽しいひと時を過ごしている。

また、過去においては、子ども達のボランティアに対する意識の向上を目的に、諸富公園のグラウンド内の除草及び清掃活動を行い、活動の後に地域の高齢者の指導により餅つきをし、黄な粉をまぶし皆で楽しく美味しくいただく行事もしていた。

